

自己評価票

(個別表)

【事業者名称】 グループホーム万葉の里

22年 7月 4 日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に関わり合いの一語を標記し、地域の一人としてのその方を支える決意を表現している。	○	地域が認知症への理解を深められるよう啓発、連携に努めたい。
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員皆で考えた理念は地域の中でその人らしく生活する支援をイメージした。毎朝職員、利用者共に理念を唱和している。	○	日々行っている介護や関わりの方向性が理念に則しているが常に振り返る場を持ちたい。
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	長年生活された地域のサロンに参加させていただき、その地域にとって過去に人では無く、現在もいきいきと生活する本人を理解していただいていると考えている。		
理念と共有 3項目中 3 項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散髪など近隣の店舗を利用し顔なじみになっている。民生委員さんに訪問して頂く事や、地元消防団の定期巡回も継続している。	○	地域の祭り(けんけと祭り)や行事に参加し住民の方とも話が弾む場面も見られるようになった。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に参加している。地域ボランティアさんの力を借りながら、事業所主催の納涼祭に参加いただいている。けんけと祭りにもお招きいただき大変楽しい1日を過ごせた。		
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行政主催の認知症啓発支援事業に参加したり、各地のサロンに参加することで認知症への正しい理解をしていただく努力をしている。	○	グループホームの存在を知り認知症を正しく理解していただく為の貢献がしたい。
地域とのつきあい 3項目中 3 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では自分たちのケアを見直すことにより、新たな気づきを発見できている。又外部評価ではホームケアの不足点を指摘していただき、新たな改善目標として取り組むことが出来る。	○	前回の課題として家族会の設立の指摘を頂き、まずは懇談会に向けて努力し実施出来た。今後は家族の希望でもあるリラックスした中でのミニ懇談会を継続的に行って行きたい。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には行政、民生委委員、ボランティア、ご家族などの参加を頂くが、それぞれの視点から見たホームのイメージや提案を頂きながら向上に努めている。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「認知症街角支援」等の研修にも声をかけていただき、地域全体の認知症への取り組みを学んだ。	○	日々の業務に追われる現状ではあるが、認知症ケアの現場の人間として地域に啓発出来る機会があれば参加したい。
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	以前には成年後見人制度を利用された利用者がおられ実績もある。今後も権利擁護事業等必要であれば対応していく。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の中には虐待を経験され緊急入所された方もあり、職員はその事実を踏まえながら、カンファレンス時には本人の状況、虐待のプロセスや家族が何故そうなったのかの心情を掘り下げて意見交換している。	○	対応困難者もおられ、日々の業務の中で職員のストレスも多い、そのストレスが事業所内に発生しないようにストレスケアにも目を向けたい。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り説明している。特に利用料金、入居一時金、医療連携体制、短期利用、には同意を得ている。又利用者の状況の変化により契約解除に当たる場合は、家族と退去後の受け入れ先も含め相談に応じている。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は各々出勤時の挨拶と共にその方の表情、話しぶり等注意し不満や苦情が無いかな観察している。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり健康状態は各担当者が月1回の家族への手紙で報告している。緊急の健康不良はその都度電話で報告し対応方法を相談しながら進めている。又金銭出納帳はいつでも見ていただけるようにしており、確認印を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情担当者を張り出している又重要事項説明書にも苦情受付機関の説明を提示している。家族から忌憚ない意見をいただけるように雰囲気作りをしている。	○	家族が職員に不満、苦情を出しやすいように家族会の設立提案はしているが設立には至っていない。
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング時に常に改善に向けての意見は口頭で、提案事項はノートに記入し共有できるようにしている。		運営者サイドの連絡事項、注意事項についても連絡ノートに記入し職員全員が共有できるようにしている。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望にはなるべく対応できるようにしている。事前に希望された事項にはシフトを組む段階で、急な付き添い等の要望にも柔軟な勤務の変更をしながら対応している。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動で大きく変化することは馴染みの関係を希薄にすることであり、最小限の異動に留めることが望ましい。		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は常勤、非常勤も含め自らの質や知識、専門性の向上を望んでいる。事業所外研修に参加した職員は全体会議の中で研修報告を行い職員全体の知識の向上に努めている。事業所全体での育成計画はあり、実施されている。		
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、同業者のネットワークを広め相談、助言などを行っている。	○	同一地域内の交流会をさらに進め、職員研修や勉強会を持ち今以上に向上の場にしたいたい。
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護困難者も居られ職員のストレスも大きい、24時間サービスを継続する場であるため職員の親睦会を催すのは難しく、それぞれに大きなストレスを抱えて日々業務に当たっている。管理者や同僚が日々の様子に目を向けパースアウトすることがないように、業務の相談や解決方法を探している。	○	職員は休憩時間を取り、業務現場から離れた場所で気分転換するように声をかけているが、実現していない。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は常に知識や専門性についての勉強を希望している。職場内研修や地域の人権学習などにも積極的に参加している。		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた家族とは生活状況等聞き取り、把握に努めながら本人とも面談している。またはホーム見学に訪問いただき、笑顔で暖かく声をかけとけ込めやすい雰囲気作りを心がけている。		職員は本人が置かれて居る状況を共有し又本人の不安や心配を受け止め、職員自身が本人に受け入れられる様に努力している。
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談、相談には管理者、職員が対応し、本人や家族の抱えている問題を聞き取る中で、安心感を持っていただけるように努めている。利用に至るまでもホームとして出来ることを考えて受け入れている。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人、家族の状況や思いを聞き取り、ホームが対応できることは早急に実施している。	○	地域福祉の視点を持ち、本人や家族やその周辺の人々の利益になるように社会資源を活用していきたい。
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学後も本人の性格、状況によっては慣れていたため数日間通いながら雰囲気をつかんでいただく試みをしている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4 項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者＝支援する人とされる人という枠にとらわれず支え合う関係作りを築いている。1日のほとんどを一緒に過ごす事で、家族以上の安心感が生まれている。利用者の一言に学んだり励まされたりする。	○	今後も職員、利用者共に同じ人として支え合い、いたわり合い、励まされる場面も継続したい。
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族を忘れないように、又家庭の中から本人が忘れ去られないように受診、散髪、衣類整理など家族が関われる部分はお願ひし、本人を共に支える認識を持っている。		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの日々の暮らしの中で感じ取れる、家族を思う気持ちを伝えるようにしている。又行事への参加を促し、本人と家族の絆が深まる様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの地域の友人、知人と共に地域サロンに参加し、関係の継続が出来るように働きかけている。		今の状態を継続し付き添い職員とも関係を構築し、今後は友人、知人がホームに訪問されるようになっていきたい。
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係においても重度の方を見守る方、共に会話が弾み笑い合う方、身体的に弱い方をサポートする方など仲間としての絆を感じる。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了してもホームに立ち寄りお茶を飲んで行かれる元家族や退去されていても職員と一緒に見舞いに行く等ホームの仲間がその方の支えになっていると感じている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6 項目					
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、常にご本人の暮らしの希望やご家族の思いを探り、実現できるよう努力している。又、会議にてご本人の思いについて、意見を出し合い、職員間で情報の共有をすることで、意向の把握に努めている。	○	非言語を読み取り、心の声に耳を傾け、きめ細やかに対応していきたい。又、表面的な部分だけでなくご本人の奥にある思いを、汲み取れるように多面的に見ていくよう努力していく。
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに十分配慮することを前提に、ご本人、ご家族、知人や他事業者などから生活歴等の情報の把握に努めている。又、まずご本人、ご家族と丁寧に接し、話していただける関係作りに努めている。		生活歴を知る事で、趣味や得意なことを知り、その部分でアプローチし、趣味や楽しみが広がる支援につなげている。
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録は、タイムスケジュール的に行動、言動を把握しその方の力を見つけて出す努力をしている。又、定期的にあセスメントを行い現状の把握に努めている。		引き継ぎやカンファレンス時に、その方の力と現状や本人の日々の変化を把握するように心がけている。3ヶ月に1回のアセスメントと、状態の変化時も迅速にアセスメントしていけるように努めたい。
一人ひとりの把握 3項目中 3 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご本人の意向の把握に努めている。ご家族の面会時に、話をする中で思いをくみ取る、ケアプラン説明時には、ご家族の意見、意向を聞くように努めている。又、会議にて、職員全体でケアプランの見直しを行っており、介護職だけでなく、兼任看護師の助言を求めるなど、チーム全体の意見で作成するよう努力している。		変化があれば、その都度、モニタリング、カンファレンスを行い、介護計画に反映させている。介護計画をチーム全体が共有し、介護計画に基づいた支援が出来るよう更に努力したい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直ししているが、状況に変化がある場合は、その都度カンファレンスを持ち、ご家族に連絡、対応の変更や計画を話すよう対応している。		介護計画の見直しは、ご本人の状況出来る限り多くの職員を集め、カンファレンスし、最善の対応を模索している。
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書式を見直すことで、必要に応じて、焦点を定めて、様子、気づきを詳しく記録できるように工夫することで、情報を共有しやすくしている。検討すべき事があれば、ミニカンファレンスを行い、ケアの見直しに活かしている。		介護計画に即しての実践ではあるが、日々の変化についてはミニカンファレンスにて、その時に応じた適切な対応ができるようにし、次の介護計画の見直しにつなげている。
介護計画の作成と見直し 3項目中 3 項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の事情や、ご本人の希望の実現を考慮し、受診や散髪の付き添い、衣類や私有の日用品の購入、自宅への付き添いなど、臨機応変に対応するよう心がけている。		医療連携体制を活かして、終末期入院を回避できるように努めたい。
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回地元の民生委員さんの訪問、定期的に傾聴ボランティアに来ていただいている。月1回レクリエーションのボランティアが来てくださり、利用者様も楽しんでくださるようになっていいる。又、地域の祭りやイベントに招待していただいたり、地域の消防団が定期的に夜間巡回に来ていただいている。地域のサロンや自宅への外出など、民生委員との連携をとり、お手伝いをお願いしている。		地域ボランティアには、内容、時間、時期など詳細な打ち合わせの時間を持つようにする。地域の方に対して、今後も協力していただけるように、職員として丁寧な対応、感謝の気持ちを伝えるように努めている。
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用されている方はいない。他事業所との連携を図り、ご家族の事情を考慮し内科、歯科の往診体制をとったり、ご本人の体力維持の必要性を感じ、町の実施している高齢者向けの体操への参加などに取り組みは始めている。		今まで、他事業所の利用をされた方はいないが、今後そのような意向のある方が出てくれば、支援できるように考えたい。
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	竜王町包括支援センター、東近江市福祉グループなど、運営推進会議に参加依頼し、情報交換や協力をお願いしている。		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内服薬や受診の管理、必要に応じて主治医に状態を文書にて連絡、必要時にご家族とともに受診に付き添い、直接医師と話し、連携を取るようにしている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族と相談し、認知症に関しては、専門医に受診ができるように支援している。ご本人の支援の中で必要な時は、医師に電話や文書でアドバイスを受けるようにしている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームに兼任看護士の配置があり、定期的に状態を診てもらっており、いつでも相談できる環境にある。また、日中は法人内に看護士がいるので、突発的な体調の変化やけがなどに対応してもらうことが出来る。地域の医療機関にも気軽に相談に応じていただける他、必要時は往診や、夜間でも電話にて対応してもらえる。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院看護計画に沿って見守り、中間期間で院内の担当者で面会し医療計画や注意点、今後の見通し、ホーム側のリハビリの要望など含め、情報交換や相談をしている。		

自己評価値	外部評価値	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後、終末期支援を行うであろう方がおられる。急変の可能性のある方に対し、緊急時の対応について、ご家族、医師と確認し、職員間で共有しており、又、どの方も高齢であり、急な状態の変化が起こりうる事を心に留めケアしている。具体的に、看取りについてご家族と話し合う段階まではいっていないが、ご家族に看取りについてのアンケートを実施したり、家族会で看取りケアについて話す機会を持っている。		連携病院やご家族との更に進んだ確認を行っていく。又、当ホームでターミナルケアの経験がないことから、ターミナルケアの勉強会や、不安の軽減を図るためにも、経験者からアドバイスを受ける、チームとして方針の意思統一をしていく必要があると考える。
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎日一緒に過ごしている職員だからこそ気づける小さな変化にも目をむけ、ご家族、主治医に報告している。急変の可能性が高い方に関しては、ご家族、医師と細やかに連携がとれるように緊急時対応について確認している。重度化や終末期についてのご家族の不安や疑問、揺れ動く気持ちも汲みながら、丁寧に返答や説明を行うよう心がけている。		ターミナルケアを行ったグループホームの実績を参考に、職員の心構え、注意点、職員の精神面のストレスなども考慮し、準備していきたい。
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームからの住み替えが発生した場合新しい環境のケア関係者と話し合いや、連携を密にし、環境の変化による本人の不安が生じないように努めている。		
地域資源との協働 10項目中 10 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	皆さんの前であからさまな介護は行わない配慮をしている又、個人情報保護法の理解に努め、秘守義務を徹底し秘密保持が守られるように配慮している。		
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己選択を基本に生活していただいている。表出しにくい方にはなじみの職員が話しかけ時間をかけて選んでいただき、職員が決めた事を押し付けることは無いようにしている。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の基本のながれはあるが、希望がある場合は思うと通りに過ごしていただいている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3 項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の個性を尊重し、本人主体の洋服選びをしていただいている。ただし季節感の無い物の場合アドバイスや提案はする。理美容は基本的に家族の付き添いの元行っているが、家族の事情がある場合は本人の希望の理美容室に付き添っている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の旬の野菜をともに収穫し洗浄、献立も一緒に考え、調理、職員とともに味見をしながら相談し、盛り付け又後片付けなども出来ることで自信、やりがいに繋げている。		
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が自宅に居られたころのように嗜好品については自由である、現在はお酒、タバコを好まれる方は無いが、酒、タバコを禁止することなく相談の上楽しんでいただくようにする。現在はコーヒー等楽しめる方はある。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表を記入しながら排泄パターン、習慣を理解し誘導している。日中布パンツが可能な方は布に、体調の変化や排泄状況でオムツ、パットの種類を選択しその方が快適に暮らせるように支援している。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心、負担感などに配慮し、強引な誘導はしていない、入浴を拒む人に対しては無理強いすることなく次の機会を伝え、又毎日入りたい人に関してもそのように対応している。		
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	快く安眠していただく為に居室の掃除、布団干し、空気の入替えなどこまめに行っている。夜間不眠を訴える方にはお茶を飲みながらゆっくりお話をしたり、添い寝をするなど推認導入への努力をしている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6 項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢であるため昔の仕事を思い出して・・・はすすまないが、本来の性格の中で世話好きであった方には重度の方の食事の見守りを職員と一緒にしたり、料理が得意な方にはいつも以上の調理作業をお願いし、本人が生き生きと生活される支援を行っている。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思でハンドバックを常に携帯しその中には幾らかの金額が入っており、美容院へ行かれた時には自ら支払われている。又食料品の小額の買い物時には職員が渡して利用者が支払われることがある。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日、そのときの気分で散歩に行きたい方は短時間の散歩に職員と出られる。又食料品の買い物には必ず利用者と一緒に出かけ品物を一緒に選びながら買い物をしている。		
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別援助の一環として担当職員と相談し一緒に出かけ、食事や買い物、寺参りなど外出していただいている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	病的な不穏時以外であれば、ご本人の希望で自宅や家族の下に電話をされることがある。又家族に手紙を書かれた場合には一緒にお届けしたり、遠くには郵送することもある。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には特に時間を定めておらず、いつでも歓迎の訪問しやすい雰囲気心がけている。又親族など大勢の訪問があっても他の方に迷惑がかからないように、ゆっくりしていただけるスペースを設けている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6 項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーを玄関に配しているが、出入りは自由である。居室にも夜間心配な方以外は防犯の意味以外の鍵はかけていない。		自由に歩き回られる方を呼び止めたり、「こっちに来てください」等の声かけも拘束と考え、そっと後方で見守っている。又、ふらつきや転倒の危険がある方には側に寄り添い共に歩いている。
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、ホームから外へは自由に出入り出来るように施錠はしていない。又、玄関先のセンサーは職員に知らせるための物であり、出られることを制止する物ではない。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員で声を掛け合い所在の確認をし、可能な限り付き添うようにしている。職員間で個々の利用者のカンファレンスや月1回の定例会議を通じて現状理解を深めるように努め、個々に即した安全確保を心懸けている。		居室で休んでいる時(昼夜を問わず)安全確保のために職員の介助が必要と判断した利用者には、センサーチャイムを設置し職員を呼べるようにしている。又、巡視の回数やその方法も個々の状況に照らし合わせている。
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と一律に決めずに何に対してどんな注意が必要か確認し合い、危険と思われる物は管理場所に保管する。通常危険ではないが利用者の口に入れることで危険が発生する物もある為、職員の見守りや気付きが大切だと考える。		家族や訪問者の贈り物についても管理を要する物もあり、その方に理解を求めると共に利用者・家族が納得でき安心できる取り扱い方を探していく。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある方にはその状態の検討を行い、環境整備や対応(付き添い・見守り・声掛け)に努めている。誤嚥・窒息に関しては食物の形態への配慮や摂取方法の観察・声掛けを行い、誤薬に関してもセット時に二重のチェックを行っている。ヒヤリハットを分析し有効活用に努めている。		様々な状況を想定しての避難訓練の実施、緊急時マニュアルの状況に即しての作成及び周知徹底する。配薬時は氏名確認の上、手渡しすることで誤薬を回避する。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを目の届くところに置き職員は目を通して。消防署主催の救急救命訓練にも参加している。	○	避難訓練に際し、専門家に危険回避のアドバイスを頂きたい。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急避難訓練は年二回実施している。地元消防団の協力を得て定期巡回にも回って頂いている。常日頃から地域の行事に参加することで、ホームも地元住民との認識を深めて頂いている。		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の利用者の変化していくリスクを家族と共に話し合い理解して頂いている。又、その時のリスクもカンファレンスし、共通認識の下でポジティブに受け止め利用者の気持ちに添った介護を心懸けている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8 項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の記録や口頭での申し送りを通して、必要に応じて看護師や医療機関・家族と連携し、各々の役割や機能を有効に生かせるように迅速な対応をしている。		個別対応マニュアルには、家族への連絡手順や医療機関等必要と思われる事柄を明記している。常時より家族の状況を把握し、必要時にはリアルタイムで連絡が取れるような関係を築きたい。
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイリングされた薬の説明書は目の届くところに配置し、疑問が出る度に確認作業を行っている。又、日付の記入をし二重のチェックも行っている。処方の変更があった場合は日誌に明記し周知出来るようにしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策としては、毎日牛乳・ジュースの寒天をデザートとして2回提供している。又、レクリエーション・体操・散歩・IADLの中で身体を動かすようにしている。		排泄記録には排尿・排便共に量・質の記入を行っている。排便を促す試みをしても尚かつ困難な場合は看護師による摘便を行っている。
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後実施している。義歯は週1回洗浄剤で洗浄し、協力歯科診療所より定期的な口腔チェックを行い、異常があれば往診して頂いている。	○	舌の口腔内の様子は職員が把握している。職員が歯磨きをしたいところだが、利用者によっては歯を磨かれるという自尊心を傷つけられる思いがあり、強く言えない。
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事・水分摂取量は記録している。摂取不良と思われる場合は職員により摂取しやすいように工夫している。		水分・食事摂取が困難な方は家族と看護師と共に受診を行い医師と相談している。
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いの励行、排泄介助や便座の清掃時には必要に応じてマスク・使い捨て手袋を使用し血液には触れないようにしている。		流行時には塩素系消毒を実施している。
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	洗浄と乾燥に努め、生ものは使い捨て手袋を使用している。賞味期限・保存方法・加工食品の産地・原材料などを確認し適切に使用している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7 項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先やホーム周りの段差を無くし、季節の花を欠かさない様に努めている。又それが訪問者やご家族の方々、歩行者共会話が弾んだり、きっかけ作りになるようにしている。		草花の好きな利用者から育て方等を教わり、共に世話をしている。咲いた花を共に手折りホーム内に飾っている。
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理する匂い、匂の食べ物、心地よい音楽、季節の行事を通じて、穏やかな家庭に住まいし季節がゆつくりと流れていく様子を、居心地の良い環境で五感で感じて頂けるように工夫している。	○	生活環境については施設仕様のため限界はあるが、可能な限り安心、安楽な生活感を持っていただけるように努めたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファや談話コーナーを配し、利用者が1人になりたい時や少人数で過ごしたい時など、各々が思い思いに過ごせる空間作りを行っている。利用者自身もそのように過ごせている。		ソファ等のしつらえも更に季節感を持つように工夫したい。
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が実際に自宅で使用してきた家具や道具を引き続き活用していただいている。又利用者個人の作品や写真を飾り、本人らしい空間を共に作っている		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロア、居室の温度管理はこまめに行い、換気に努めている。冬は加湿器の設置を行い感染症の対策を行っている。	○	温度管理をしても尚、寒さを感じられる利用者が多く苦慮している。外気温を考慮極度な変化が無いようにしている
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体機能に合わせた環境づくりをしている。歩行が不安定な方には居室内にも手すりを取り付けている。又わずかな事が転倒につながらないようにフロアの環境を整備している		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どうアプローチしたら解っていただけるか、混乱が生じたときはすぐにカンファレンスを行い言葉のかけ方や表現の仕方など検討している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	食堂の前に張り出したウッドデッキに出て、朝食、昼食を風を感じながら摂ることもある。又庭の草むしり、季節の花や野菜を植えて楽しんでいただいている。	○	高齢がすすんだ為、外の作業が困難になりつつある。日々の体操、散歩を強化し下肢筋力アップに心がけている。
本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
	↓○印欄
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項目	14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度の目標の一つには、昨年に引き続き地域との繋がりを目指している。大規模施設が故に地域からの訪問はボランティア以外にはなかなか進みにくいのが現状であるが、地域防災訓練やお祭りの案内など、区長様からのお誘いを受け参加させて頂くことで、住民の方と職員の会話が弾む場面もあり地域に少しずつ認識していた抱けていると感じて居る。しかし行事への参加をしても、又地域の祭りや文化祭に参加させて頂いてもその努力は常に点、点の実績として残るのみで、点と点が線でつながり大きな目標につながりにくいらいらだちを感じている。グループホームは地域密着型の事業所として位置付けられている以上、常に地域を意識し又その地域でグループホームへの理解を進めたいと常々考えているがなかなか進みづら歯がゆさをも感じている。とはいえサロンに参加される日は馴染みの友人に会える事で何かしらいそいと出かける準備をされ、帰宅外泊された後は住み慣れた家で過ごされた満足げな様子を見る時、利用者がサロンに出かけ職員がさりげなく付き添い、世話役様と会話するうちに地域の方とも馴染みになり認知症の話やグループホームの説明を行うことも認知症啓発の一端を担っているのではないかと考えることにした。もう一つには利用者の重度化、高齢化でありその為の体力低下、歩行機能の低下にある。ホームでは毎日のラジオ体操、健康体操、独自の下肢筋力強化体操を行ってきたが、今年度は竜王町が力を入れて居られる「健康いきいき100歳体操」を週2回行うことで、筋力アップを目指している。グループホームらしいグループホームを維持する為に今後も利用者がいきいきと主体的な暮らしを維持するための支援を行いたい。

評価結果整理表

個別表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	4 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	#### 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	#### 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	項目/1項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (5項目/5項目)について

「ふれあい」「支え合い」「認め合い」「関わり合い」という4つの愛を理念に掲げ、それを念頭に置いて職員は日々支援するように努めている。家族に近い存在となるように心がけて接する中で、ホームを自分の居場所と感じてくださっていると感じるご利用者の言動も見られるようになっている。

「支え合い」の部分ではご利用者と職員だけでなく、ご利用者同士がちょっとした事だが困っている方を助ける場面があり、支え合う関係が生まれている。ご利用者の中には他の方を「ともだち」「家族」と表現する方もおられ、また他のご利用者や職員を知人、親類と思いこんでおられる方もおられ、仲間意識や絆が感じられる。個々に出来る力、得意な事を把握し、その部分に意識的に働きかける中で、趣味や家事、畑仕事など自信を持って参加されることも増えてきた。

地域との「関わり合い」の部分では、昨年に引き続き、運営推進会議の集まりの中で各方面の協力を頂き、サロン、外泊、帰宅、ボランティアなど地域との関わりを継続させてきた。また、今年度はホームのある地域の行事へ招待していただき、参加する中で地域の方から声かけも頂き交流する機会があったことは、うれしい前進であったと感じている。大規模施設併設という点で地域との関係が深まりにくいという課題はあり、今後も少しずつ理解を深めていけるようにアプローチしていきたい。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (2項目/2項目)について

#####

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (4項目/4項目)について

アセスメントでは、その方々の歴史をご本人やご家族に伺う内容、サロンなど地域で伺うご本人の人間像を職員全体で共有し把握に努めている。日々変化する本人を今までの生活の歴史を尊重しつつ、現生活を主体的に送っていただけるよう、プランを検討し支援をしている。本人の状況の変化には迅速にカンファレンスを行いプランの変更を行っている。家族、地域、職員のチームで入居者を支えるように努めている。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (7項目/7項目)について

本人の嗜好や興味を引き出すことを会話の中から引き出すように心がけた。ご本人の自己決定を促すようにしたり、本人を尊重する支援をしている。個別支援で得意な事、好きなこと(針仕事、畑、絵を描く、外出)などをする事で楽しみを持ち、張りのある生活が出来るようになった。又地域から切り離されることがないように、サロン、地元への買い物や行事への参加、知人の訪問、家族を含めた催し物の企画など、馴染みの家具のしつらえなど居室環境を整えた。

V サービスの成果に関する項目について

ご家族の家庭事情や意向をよく聞き、ご本人が不安を感じないように出来る限り柔軟に対応してきた事が本人、家族に満足につながったと感じる。受診の付き添いや入院中のフォローや帰宅支援、日々の体調管理の中での職員の「気づき」を大切に受診するなど早目の対応が出来ている。地域に帰るを目標に支援を継続しており、各地域の方にも理解が広がったと感じる。新規入所の方には事前に情報交換や説明を行い、安心してホームに暮らせるように配慮してきた。何よりも日々表情豊かに生き生き生活する姿を目の当たりし、喜んでいただいている。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 グループホーム 万葉の里

評価年月日: 22年 7月 4日

前回評価年月日: 21年 7月 21日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
4.5	1	地域との支え合い・地域 交流の促進	22年7月～ 23年6月まで	現在は各地域のサロン等の参加者は3名 帰宅や自宅への外泊される方は3名と現状維持である。その方らを通じて少しずつグループホームというものが理解されてきたと感じている。今後は地域に貢献できる事業を模索していきたい。		
21	3	職員のストレス軽減に向けた取り組み	H22年7月～ H23年6月まで	認知症介護を行う職員にとって、ストレスは切り離せないが、ストレス軽減の取り組みは継続的に行って行きたい。休憩時間や休憩場の確保や各自の介護上の悩みを抱え込まない、自身の力量の無さと考えず、カンファレンスで話し合える場の設定を行う。		
47	2	重度化対応や機能低下を 予防する	H22年7月～ H23年10月まで	時間の経過とともに重度化は免れない進行である。それに付け加え他の身体的な病気が発生したり、高血圧、便秘、下肢機能低下は皆さんに起こる状況である。ホームで少しでも長く生き生きと暮らしていただく為の「いきいき100歳体操」に力を入れたい。		